

< 読者投稿 >

「一連の報道をとおして感じたこと…」

鶴ヶ島市議会 6 月定例会開会前の全員協議会（5 月 29 日）において、これまでの行政調査新聞の報道に対して「お騒がせをした」ということから、内野嘉広議員が議員全員を前にして謝罪をした。即ち、暴力を起したことを正式に認めた訳だが「議員辞職」はしないということだ。

鶴ヶ島市議会 6 月定例会は、6 月 15 日に既に閉会しており市議会としては、本人が謝罪した時点で幕引き収束を図ったということだ。

こうしたことが、「世間一般の感覚と当事者本人、そして市議会の感覚が如何にずれているか」ということである。さしずめ世間の常識は当事者本人、市議会の非常識と言ったところか。しかし、それでは余りにも市民を愚弄しているのではないか。所詮、市議会そして議員はこの程度のレベルなのである。

それとともに、この一件では警察当局が、通報を受けて駆け付けたということで捜査段階に入りつつも「即示談」となったようである。通常このような場合には、逮捕・起訴または不起訴（起訴猶予）等の段階を経るのである。こうした中での暴力行為というものは、市議会議員という公的身分ということから、結果的に示談になったとしてもその代償は余りにも大きいと言えよう。

しかしながら、行政調査新聞の報道の流れの中で筆者が不可解に思うのは、鶴ヶ島市議会の共産党議員団の動きである。この一件が、例え一年有余の歳月が経過しようとも、謝罪だけで済まされることなのであろうか。

どう判断しても到底議員辞職の誹りは免れ得ない。いずれにしても、今回、行政調査新聞の一連の報道をとおして鶴ヶ島市民が、この一件を知り得たことは非常に貴重なことである。来春に迫りくる「統一地方選挙」での判断をどのように下すのか、鶴ヶ島市民の真価が問われていると言えよう。

良識ある鶴ヶ島市民の判断を望みたい。

—愛読者（職業）弁護士—